

**ＰＴＡ活動についてのアンケート最終報告**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和４年1２月１６日

今年度の市ＰＴＡ研究大会でのパネルディスカッションを実施するに際し、テーマや内容（話の柱）に学校関係者・各単位ＰＴＡの意見を反映させるためにアンケートを行っている。最終的には、教職員約６割、保護者約４割の回答割合であった（総回答数185）。

　**調査項目（７項目）**

1. あなたは、ＰＴＡと聞いてどのようなことをイメージしますか。
2. あなたは、ＰＴＡに対する不安や悩み、疑問はありませんか。
3. あなたが、ＰＴＡ活動でメリットに感じていることはどんなことですか。
4. ＰＴＡの役員選出で悩んでいることや困っていることはありませんか。
5. あなたが考える、理想のＰＴＡとはどのようなものですか。
6. あなたの心に残るＰＴＡ活動がありましたらお書きください。
7. その他（自由記載欄）

　**主な調査結果**

1. あなたは、ＰＴＡと聞いてどのようなことをイメージしますか

((肯定的意見))

* + 子どもの健全育成のための大切な組織。
	+ 学校運営のサポーター（よき理解者）。保護者・学校・地域の繋がりを作る組織。
	+ 実際にＰＴＡ活動に関わる前は、“大変そう”、“嫌な仕事”、”させられ業務”という

イメージだったが、関わってみたら全く違った。

　((否定的意見))

* + 不易な活動。めんどくさい。難しそう。堅いイメージ。
	+ 夜の会議等が大変である。
	+ 役員選考が大変である。
	+ 一部の保護者に大きな負担がかかってしまっている。
	+ 何でも「子どものため」を言い訳にしている。
1. あなたは、ＰＴＡに対する不安や悩み、疑問はありませんか。
2. 活動全体の見直し：負担感・不安感の軽減につなげる

・コロナ禍の活動自粛を通じて、活動全体を見直したが、改善のために変えてみた

　ことが望ましいことなのか、やってみないと分からないことへの不安。

・時代に応じた変革の必要性。働き方改革、共働き世帯の増加、少子化に伴い、組

　織編成・予算徴収・役員制度・事業規模の見直しの必要性を感じる。

・夜間の活動（会議等）への負担感がある。時間外の仕事が増える。

1. 活動への協力依頼について：どうやって協力依頼をすればいいのか分からない

・一人一役制に対して協力的でない保護者がいる⇒役員の負担増。

・役員選出が大変（役員＝大変そうというイメージが先行する）。

・先生方と保護者のコミュニケーションの取り方に悩む⇒学校とＰＴＡがしっかり

　連携していれば、学校運営は上手くいく。

・保護者一人一人の価値観が違うため、学校の取組を理解して頂けない場合がある。

1. その他

・給食費の管理（自治体で管理してほしい）

・人間関係で孤立してしまうことがある。

・理不尽な要求をする一部の保護者への対応。

・各大会等の要請数について。要請してまで実施する必要性はあるのか。

・役員の方への報酬があってもいいのではないか。

・市ＰＴＡ、県ＰＴＡ、九州ＰＴＡ・・と組織が上にいくほど、活動内容が見え

　にくい。また、会費は健全に使われているのか。

1. あなたが、ＰＴＡ活動でメリットに感じていることはどんなことですか。

((教職員))

 ・学校に求められていることを知ることができ、学校の教育活動に生かしていけ

　　 る。教育活動に厚みが出る。

　 ・学校だけでは解決できない諸問題を家庭の協力により、よりよい方向へ向かう。

　 ・保護者・地域の方との連携がスムーズに行える。

　 ・開かれた学校の実現。

　 ・教職員の負担軽減。

　 ・異業種の保護者の力に助けられることがある。

　 ・ＰＴＡ予算があることで助かっている面がある。

((保護者))

　 ・保護者同士でも連帯感が生まれる。

　 ・子どもの行事に携われる。

 ・学校のことがより分かるようになった。

 ・子どもたちの環境を整えるために意見を言えること。

　((全体として))

　　 ・人生経験が積める。人脈が広がる。人としての成長を与えてくれる。

　　　・保護者・教員の良好なつながりが子どもの成長につながる。

　　 ・何か困った時に相談しあえること。協力して進めていくことができる。

1. ＰＴＡ役員選出で悩んでいることや困っていることはありませんか。

・希望者がいない。負担感・デメリットが強調され、敬遠されがちである。

・コロナ禍で役員選出に苦慮している。活動もできず、保護者間の繋がりも希薄であり、

　候補者自体が挙がらないことも多い。

・ＰＴＡ会長がなかなか決まらない。

・役員選出がある会を欠席する保護者が多い。

・決まらないのでくじ引きになってしまう。

・役員決めをする際の雰囲気の悪さ。

・どのような流れで役員選考を行えば上手くまとめられるのか（聞いてみたい）。

・自営業など時間に融通が利く人になりがちである。

・役員選考時にリーダーシップを取ってくれる保護者がいる時はスムーズにいくが、そ

　うでない時は難航する。

1. あなたが考える、理想のＰＴＡとはどのようなものですか。

・学校と家庭がお互いを理解し、協力し合い、子どもたちの成長のため、同じベクトル

　に向かって活動する。

・保護者と教員が双方向から話し合える関係。

・学校の思いを理解していただける保護者が多いこと。

・地域・保護者・学校が一体となった学校運営。

・学校と家庭・地域の役割分担をある程度明確にし、グレーゾーンをなくすこと。

・ボランティアの形で協力してもらえる活動。

・その都度、できる人ができる分だけ活動していくスタイル。

・学校・保護者ともに負担は少なく、成果は大きく（活動の選定・スリム化）

・誰でも気軽に参加できる。みんなが自発的に取り組める環境。

・専門部によって忙しさが極端に違うことがない。

・役割意識を明確に持ち、保護者同士がよく理解しあえている組織。

1. あなたの心に残るＰＴＡ活動がありましたらお書きください。

・子どもたちと一緒に活動した門松づくり等、季節の行事やミニバレー大会

・歩こう会。保護者によるふるまい。魚のつかみ取り。餅つき大会。

・街のバリアフリー調査を保護者と生徒、教員で実施。

・全国大会でＰＴＡ広報誌が表彰されたこと。

・コロナ禍で活動が出来ない時に、有志で広報誌を発刊することができた。また、

　動員や役を決めずとも声を掛け合い、運動会の準備や片付けを保護者ですること

　ができた。（その他運動会等でバルーンアートやバルーンリリースを行ったところ

　も複数校あり。）

・コロナ感染拡大防止のため、高校の見学会を役員中心で撮影し、動画編集・配信。

　保護者から非常に好評であった。

・雨模様の運動会で、全プログラムを遂行するために教員がプログラムを組み換え、

　役員以外の保護者も運動場の水をスポンジで吸い、砂で埋め、宮崎市で唯一運動会

　の全プログラムを行った。子どもたち（特に六年生）が喜んでいた。

・小学校二校が合流する中学校の入学前に、六年生が交流できるイベントを実施した。

　児童も保護者も楽しむことができ、入学後いち早くなれることができたと思う。

・学校の創立記念事業、閉校の記念行事に携われたこと。

・使われなくなっていた学校の音楽広場をイベントの場として再活用した。

1. その他（自由記載欄）

・コミュニティスクールへの理解も進めていく必要があるのではないか（保護者や地

　域の声を学校運営の参考にする）。

・既存のものにとらわれず、新しい発想で試行していかなければならない時ではないか。

・保護者の皆さまには、多大なるご協力をいただき、大変感謝している（教員多数）。

・ＰＴＡ会費を払わない保護者が出てきていることが気がかりである。

・市Ｐ協議会、県Ｐ連合会、その他団体も時代に合わせての変革が必要ではないか。

・現在の組織（単位ＰＴＡ）を解散し、新たな形式の任意ボランティア団体を作った場

　合、市Ｐ以上の上部組織から抜けることはできるのか。